



石炭の石油製品への転換に関する世界会議

第 1 回世界石炭液化会議

WORLD CTL 2008

World CTL 賞最初の受賞者に NEDO の和坂貞雄氏

第 1 回世界石炭液化会議 World CTL 2008 が、2008 年 4 月 3 日から 4 日までパリで開催されます。世界エネルギー会議(WEC)、世界石炭協会(WCI)、フランス石油研究所(IFP)の後援で開催されるこの世界会議には、石炭液化(CTL : Coal-to-liquids)関連の主要プレーヤーが集まります。石油化学、自動車や航空機などの石油製品を使用する企業、エンジニアリング企業などの CTL サプライヤー、金融機関、触媒サプライヤーから専門家が出席し、エネルギーの現在・未来の主要課題に関する豊富なプログラムで専門知識が発表されます。

今日、CTL は、エネルギーに関する戦略的思考の中心に再び登場してきました。南アフリカで消費される燃料の 30% が石炭を原料としたものです。米国空軍は、このような燃料を使った B52 の飛行試験を終了し、2011 年末までに全フリートを試験する予定です。中国石油大学は選択科目“CTL”を創設しました。また、中国最大の石炭会社、神華集团公司は、2008 年に最初の CTL 工場（日産能力 20,000 バレル）の操業を開始する予定です。

世界石炭液化会議 World CTL 2008 は、戦略的・環境的・技術的・経済的課題に関する初めての意見交換の場となります。

戦略面では、石炭が豊富で石油に乏しい多くの国のエネルギー依存度の軽減に CTL が寄与し、鉱業会社により有効な利用と石油会社の供給の多様化が可能になります。鉱業会社と石油会社の幹部の討議からこの 2 つの主要産業の戦略が総体的に捉えられます。

環境面では、石炭がその化学的性質により高レベルの二酸化炭素を発生する恐れがあり、CTL 関係者の主要な関心事となっています。この問題を取り上げ、定量化し、他のエネルギーと相対化します。研究者と企業家が試験的解決策または既に工業化されている解決策を紹介し、従来の燃料に対して“合成燃料”と言われる、CTL からできた燃料の環境的利点を挙げます。

技術面では、“直接”および“間接”という二つの技術部門のリーディング企業がプロセスの技術、経済、環境パフォーマンスを発表します。

CTL に特有の経済的課題は重大です。石炭と石油の価格変動、はっきりしない財政政策期間、インセンティブの有無、環境関連対策費用、現在、産業経験が 1 社の経験に限られているためにライセンサーとエンジニアリング会社が与えることができる保証が低いことなど、いくつもの不安定な点が収益性に影響します。

世界石炭液化会議 World CTL 2008 は、CTL の他に、石炭から製造された化学品 (Coal-To-Chemicals) の生産法および石炭に代わる原料としてバイオマスの使用法 (Biomass-To-Liquids) を発表する機会でもあります。

会議の最後に、CTL 技術の理解、向上、実施、公開に貢献する功績を上げた、CTL 界の優れた人物に World CTL 賞が授与されます。第一回目の受賞者は NEDO 理事の和坂貞雄氏に決定しました。2005 年ノーベル化学賞受賞者であるイヴ・シヨヴァン氏から手渡されます。

また会議と同時に同じ会場で展示会が併催され、企業は顧客、潜在的顧客との交流が図れます。

World CTL に関する最新情報については、www.world-CTL2008.com をご覧ください。

主催者 : World CTL 2008, c/o MCI

担当者 : Ms Bruna Bertolini

所在地 : 24 rue Chauchat, 75009 PARIS – France

Tel: 33. 1 53 85 82 74

Fax: 33. 1.53.85.82.83

Email : wctl2008info@mci-group.com

Website : www.world-CTL2008.com